

第45回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール

最優秀賞・岐阜県知事賞作品

最優秀賞・ 岐阜県知事賞

6年自由図書部門／読んだ本・びりっかすの神さま

一番になるより大切なこと

恵那市立中野方小学校 樋田莉子

「どうせ一番とれないからやらない。」

お母さんがすすめてくれたかるた取り大会を、私はそう言って断ったことがあります。

私は正直に言っ、競争したり順位をつけられたりするのはいきりです。だって、負けたらカッコ悪いし、はずかしいし、勝った人がとてもカッコよく見えてうらやましくなるからです。だから負けたり悪い順位をとるくらいなら、その競争に参加したくありません。

少し前にインターネットを使っているとき、この本が小学生におすすめだとしようかしている記事を見つけた。家の本だにこの本があることはずっと前から知っていたけど、「びり」っている言葉があまり好きじゃなくてずっと読まなかった。この機会に読んでみることにしました。

タイトルには「神さま」と書いてあるけど、表紙には背中に羽が生えているボサボサのかみの毛のつかれた顔をしたおじさんのイラストがかいてあって、とてもたよりなく見えました。

この本には、クラスでびりをとった子だけに見える神様びりっかすがとうじょうします。主人公の始は、びりっかすと話すためにわざとびりをとります。びりをとるとびりっかすや他のびりの子と頭の中で会話することができるようになります。びりっかすのひみつがクラスにひろまっていこううちに、クラスのみんながびりを目指すようになり、そこから競争や勝ち負けの意味を考えていくお話です。

始のお父さんはひとに負けないように仕事をがんばって、がんばりすぎてなくなってしまいました。そんなお父さんを見ていたお母さんは、始に「ひとに勝つことががんばるっていいことだったら、あなたにがんばってほしい」と言いました。

このお母さんの言葉を読んで、がんばるってどういうことか考えてみました。テストでがんばるっていうのは百点をとって一番になることだし、スポーツでがんばるのは試合に勝って一番になることだと思いいこんでしまっていたことに気がきました。どうしても勝ちたくて、良い順位をとりたいと、競争したり順位をつけられるのが大きいのに、実際は競争に勝つことや一意を取ることにすぐこだわってしまっていたんだと思います。

始がわざとびりをとっていることを知ったみゆきが、「それ、いっしょうけんめいに走ったみんなを、ばかにしていることにならないの?」と始に言ったとき、私は嶺がドキッしました。いっしょうけんめいやらなかつたり、勝負からにげたりすることはみんなをばかにしていることになるのかもしれない。かるた取り大会からにげようとした私に言われているような気持ちになつて、はずかしくなりました。

クラスのみんなが学級対こう全員リレーで二組に勝つたらうれしかうれしくないか考えているときは、私もすごくないなりました。勝つても負けてもうれしくないならどうしたらいいのかむねがもやもやしました。

びりっかすの答えは、「本気で、走れよ。」

でした。私も心の中で始たちを本気で応援していました。クラスのみんなが、一番になるためじゃなくて本気で走ったからみんながうれしかった。だからきつと結果がもし一番じゃなくてもうれしかったと思います。

よれよれの服を着てつかれた顔をしてたよりない神さまに見えたけど、このびりっかすの神さまのおかげで始たちは本気でがんばることの意味や、勝つことよりも大切なことに気付くことができました。目標に向かって一生けん命努力して自分の力が出せたなら一意や勝ちよりも価値があるんだとびりっかすの神さまは始たちに教えてくれたんだと思います。はじめにびりっかすのイラストを見たときにたよりないと思ったことを謝りたくなりました。

順位や勝ち負けにこだわらずに、人からどう思われるかを考えすぎて、今まで本当の意味で本気でがんばっていなかった私にとって、このことをおしえてくれたびりっかすのことも始のことも神さまに思えました。

大人の世界では、始のお父さんみたいに、がんばるだけではだめで一番にならないという意味がないときがやってくるかもしれないけど、もし一番になれなくても、びりになったとしても、目標に向かって本気でがんばったことを誇りに思える心を持つていたいと思います。